

総合教育センターだより

142号 令和8年3月発行 山梨県総合教育センター

「観」を問いつける教師へ — 変化の時代を支える新たな学びの創造

山梨県総合教育センター 所長 天野 信一

中央教育審議会は令和6年8月、「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保や、教師が継続的に学び続けるための環境整備についての答申を取りまとめました。この中では、急速に変化する社会を生きる子供たちには、「自ら問いを立て、課題を探究し、他者と協働しながら未来を切り拓く力」が不可欠であることが示されています。そして、その力を育むには「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させていくことが重要であると述べられています。さらに、こうした学びを支える教師が専門性を高め続けられるよう、学校全体の働き方や組織の在り方を見直し、安心して学べる環境を整えていく必要性についても触れられています。本センターでは、こうした国の方向性や県の施策を踏まえ、新たな情報技術の活用や授業改善、探究的な学びの充実に向けた研修や伴走支援を行いながら、県下の学校とともに「子供主体の授業への教育観の転換」を目指してまいりました。来年度はさらに、教科等横断的な視点を取り入れた研修や、質の高い探究的な学びの一層の推進に努めてまいります。

また、今年度は「新たな教師の学びによる次世代リーダー研修会」を実施し、学校づくりの視点や課題解決力を高めるため、「対話」と「省察」、「探究活動」を重ねる場を先生方と共有してきました。参加された先生方が、互いの思いや実践を語り合う中で気づきを深め、学び合う姿から、これからの学校づくりを支える力強い土台を感じることができました。また、変化の激しい教育環境の中でも教師自身が学び続けることの意義を、ともに再確認する機会にもなりました。

「新たな教師の学び」とは、単なる知識や技術の習得にとどまらず、日々の実践を振り返りながら、自らの捉え方や姿勢を見つめ直し、柔軟に変化し続けていく営みそのものです。その中心にあるのが「観（かん）」という視点です。「観」とは、物事をどのように捉え、意味づけるのかという視点や態度であり、子供理解や授業観、学び観など、教育におけるあらゆる判断の基盤となるものです。例えば、子供を「できない存在」と捉えるか、「可能性に満ちた存在」と捉えるかで、指導の姿勢は大きく異なります。したがって、教師の学びは知識の獲得だけでなく、自らの「観」を問い直し再構築していく過程でもあります。

新たな学びには、「協働性」「省察性」「探究性」の三つの特徴があります。協働性は同僚・地域・専門家とつながり、対話によって学びを広げること。省察性は日々の実践を振り返り、「観」の言語化や視座の拡幅を図ること。探究性は自ら課題を見だし、試行錯誤を重ねながら解決に向かう姿勢を指します。これらは、教師を「孤立した専門家」から「学び合う専門職」へと変える鍵となります。

結局のところ、「新たな教師の学び」とは、変化する教育環境に応じて柔軟に思考し、自らの「観」を問いつける営みであり、その姿は子供に「学びは生涯続くもの」という価値を体現することにもつながります。これからの教師には、知識の更新だけでなく、「観の転換」を伴う深い学びが求められています。

本センターは、「学校教育を支援する確かな情報発信源としての総合教育センター」を基本方針とし、教職員の資質向上、学校現場の課題解決に向け、関係機関と連携しながら研修・研究・相談・開発・普及啓発の各事業を推進しています。学校現場の先生方の日々の実践を支え、後押しし、さらに進むべき方向を照らす存在であり続けられるよう、今後も全力を尽くしてまいります。どうぞ引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

山梨県総合教育センター研究大会を終えて

教育研究推進幹 平沼 公香

令和8年2月19日、「新しい時代の学校教育の実現に向けた総合的な学校支援の充実～求められる資質・能力の育成に向けた実践的指導、校内研究の在り方～」をテーマに「山梨県総合教育センター研究大会」を開催いたしました。

本年度も多くの先生方にご参加いただけるようにオンライン方式にて開催いたしましたところ、県内外教職員・教育関係者250名を超える皆様にご参加いただくことができました。ご参加いただいた皆様、山梨大学アドバイザーの皆様をはじめ、ご協力いただきました皆様方に心より感謝申し上げます。

研究推進校におかれましては、子供主体の授業観の転換を目指し、校内研究の充実に向けて本センターとの協同研究を推進していただきました。本大会において発表させていただいた各校の具体的な実践等、協同研究の成果につきましては、年度末に本センターのホームページにて公開いたしますので、ご高覧いただければ幸いです。また、各種教育情報や校内研修用プログラム、資料等につきましても、各学校の教育活動の一助としてご活用くださいますようお願い申し上げます。

今後も本センターでは、シンクタンク機能の充実を図るとともに、専門性を生かした学校支援の充実を推進してまいります。県下の学校教育を支援する汎用性の高い研究となるよう努めますので、引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

研修指導課

「先生方の学び」に寄り添った研修会の運営を目指して

教員の学びの場である「研修」に対する皆様のイメージはどのようなものでしょうか。

今までの研修では、「一斉型・一方向型」講義による「伝達型研修」や「ハウツー型研修」が主流でしたが、先生方に「探究心を持ちつつ自律的に学ぶ研修」を受講していただけるように、本センターでは教員研修の見直しを進めています。

まず、今年度より全ての研修のはじめに「イントロダクション」（目標や問いの投げかけ等）、研修の終わりに「リフレクション」（学びや気づき、問いの振り返り）の時間を設定し、受講される先生方がより主体的にご参加いただけるスタイルにしました。また、「新たな教師の学びによる次世代リーダー研修会」（探究型研修）をスタートさせるとともに、一部既存の研修会に「新たな教師の学び」の視点を取り入れリニューアルを図るなど、先生方に探究的な学びを体験していただける研修会、対話・体験を効果的に取り入れた研修会の運営に取り組みました。

個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて「主体的・対話的で深い学び」を実現することは、児童生徒の学びのみならず、教師の学びにも求められており、「教師の学びの姿も、子供たちの学びの相似形である」とも言われています。

『教師は教える専門家から学びの専門家へ』・・・研修を通して先生方の学習観・研修観の転換に繋がる、参加者を「主語」にした特色・魅力ある研修会の運営に向け、本センターでは、これからも「学び続ける教師」に寄り添った、よりよい研修の企画・運営で先生方の支援に努めてまいります。

令和8年度も、本センターにおける研修への積極的な参加をお待ちしております！

調査研究課

「山梨県教育振興基本計画」に示された基本理念の下、「学力調査に関する業務」「研究に関する業務」等、学校の現状に即した今日的教育課題を把握し、学校教育を支援することを目的とした実践的な研究を推進してきました。

各種学力調査の結果を踏まえた授業の改善・充実に向けて

全国学力・学習状況調査や山梨県学力把握調査、山梨県公立小中学校教育課程実施状況調査の結果から児童生徒の実態を把握し、児童生徒の学力の向上や教職員の授業力向上を目指して取り組みました。小中学校や関係機関を対象に、授業の改善・充実に向けた説明会を開催したり、新たに立ち上げたポータルサイトに授業改善に役立つ資料等を掲載したりして、各校が日常の授業をアップデートしやすくなるよう工夫しました。

センター研究について

「知の拠点」としてのシンクタンク機能の充実を目指し、学校教育の研究支援を行ってきました。「授業づくり・学校づくり」領域では、4校の研究推進校と緊密に連携を取り、年間を通じて継続した協同研究を推進しました。「相談支援」領域では、学校からのニーズや本センターの専門性を踏まえ、「教育相談・教育支援」と「特別支援教育」において独自研究を進めました。「情報教育」領域では、校務における教育DX推進に向け、生成AIの活用促進について研究を進めました。

なお、研究を進めるにあたっては、山梨大学教育実践総合センターやデータ分析WGの先生方と連携を図る中で、推進校への指導助言や高い専門性による学力調査の結果分析等、多大な協力をいただきました。

今後も、「子供主体の授業づくり」や「主体的・対話的で深い学び」の実現等の教育課題の解決に向け、実践的な研究支援に取り組んでいきます。

相談支援センター

児童生徒、保護者、教職員に寄り添う相談・支援の充実を目指して

私たちの業務の多くは、1本の電話から始まります。内容は、面接の予約や支援の依頼、悩んでいることや困っていることの相談など多岐に渡りますが、電話の声からは「誰かに聞いてほしい」「誰かに助けてほしい」という切実な思いを感じることも少なくありません。相談者一人ひとりが抱える悩みの解決や軽減につながるよう、相談者の思いを大切にされた対応や支援の充実に努めてまいりました。

■教育相談機能の充実

- ・一つ一つの相談に対して適切な支援が行えるよう、専門家の意見を取り入れながら支援方針の立案を行い、相談者の思いに寄り添った支援に努めています。
- ・「やまなし子供SOSダイヤル」による24時間365日電話で相談ができる体制の充実に努めました。
- ・不登校や発達に関わる相談が増加傾向であるため、センター研究として取り上げ、支援の具体的方針について研究を行うことで、支援の改善に努めています。

■センター研究の充実

- ・教育相談チームでは、「有効的な支援方法について～不登校事例の質的分析を通して」、特別支援教育チームでは、「学習障害の理解と支援に関する研究～背景要因の把握とつまずきに応じた指導支援の充実を目指して」をテーマとして研究することで、支援の充実や担当の業務改善にもつながるよう努めています。

■学校等への支援の充実

- ・教職員を対象とする研修会においては、今日的な課題を取り上げ、学校における課題の解決につながるよう努めました。
- ・市町村の教育支援センターへの訪問や、チーフスクールカウンセラー、統括スクールソーシャルワーカーによる支援を通して、諸課題への対応の充実に努めました。
- ・SOSの出し方に関する教育や、不登校児童生徒への対応、特別支援教育の理解の促進、ヤングケアラー支援の啓発など、学校等における教職員や担当者の研修への支援にも積極的に取り組みました。

ICT教育支援センター

■教育の情報化への取り組み

県内情報教育のセンター的機能をもつICT教育支援センターは、令和7年度、山梨県教育振興基本計画の趣旨の実現に向けて取り組みを行ってきました。

今後、Society5.0と言われる急激な社会変化の中で、教育分野のデジタルトランスフォーメーション（DX）が加速しています。整備された1人1台端末を文房具のように使いこなす「日常化」を推進し、各教科等においてICTを活用した課題解決型の探究的な学びを充実させることが不可欠であることを踏まえ、学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力を育成するための教師の指導力向上・ICT環境を活用した教育活動の更なる充実を目的とした研修会を13講座開講し、述べ636名の先生方が受講しました。昨年度の受講者数から15%の増加となり、ICTの利活用、情報モラルへの関心の高まりを実感する結果となっております。

また、デジタル教科書・教材・学習支援ソフトの活用に向けた取組の推進、教育企画室と連携し、クラウド活用による次世代の校務DXを通じた教育データの利活用や学校における働き方改革につながる研修会などにも取り組んできました。校務の効率化により教職員の業務負担を軽減し、子供と向き合う時間を確保することは、本県の教育振興基本計画においても非常に重要なテーマとなっております。

これらの取組によって得られたICT活用やデータ利活用のイメージを先生方に共有するためにICT教育支援センター通信を毎月発行したり、ご要望に応じた指導主事派遣を実施したりするなど、先生方に寄り添ったサポートの充実に努めてきました。

令和8年度は、引き続きDXを見据えながら、全ての学校で「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実や、「子供主体の授業への転換」を着実に進めていくための支援、「探究的な学び」や「STEAM教育」等に資する研修会の充実に取り組んでまいります。

■やまなしeラーニング（YeL）の充実

YeLの運用では、広報活動の促進、研修内容とコンテンツの関係性の強化、自主研修や校内研修に活用できるコンテンツの充実、ICT活用実践事例の収集等の取組に加え、他の研究機関が作成した有効なコンテンツへのリンクも含め、研修の充実と効率化・利便性の改善を行っています。今後も、YeLの充実と円滑な運用・管理に努めてまいります。

■研究支援：情報教育に関する研究

令和7年度からは校務DXの推進をテーマに研究を行うことになりました。

文部科学省初等中等教育局学校デジタル化プロジェクトチームが行った、「GIGAスクールの下での校務DXチェックリスト」の自己点検結果を参考に、活用が進んでいない生成AIの校務での活用に着目しました。具体的な取組として、総務省より示された生成AIの資料等を基に研修パッケージを構築し、「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」の内容の周知や留意点と併せて、本センターの指導主事向けの研修を始め、派遣依頼のあった学校や研究会にて情報発信と活用の支援を行いました。この研究の経過、及び成果と課題について、過日行われたセンター研究大会で発表しました。

■学校の情報化推進のための基盤整備と支援

教育情報ネットワーク、情報教育などに関する相談業務を通して、業務の効率化と教育の情報化を支援しています。ICT教育に関わること全般についてご不明な点がございましたら、お気軽にご相談ください。

「研究大会・特別講演会」

今年度のセンター研究大会「特別講演会」は、東京学芸大学大学院教育学研究科の西村圭一教授をお招きし、「探究文化を芽吹かせる学校づくり～これからの『探究』を考える～」と題してご講演いただきました。当日は、220名を超える県内外の教育関係者が参加し、「探究」について共に考える時間となりました。

西村先生からは「探究」を根付かせる過程において、学習者である児童生徒の理解に基づく学びのストーリー作りや問いづくりが大切になることや、学校文化をアップデートしていく上で視線合わせ・意識合わせ・呼吸合わせがいかに大事であるかといった、学校として、教員として「探究」にどう向き合っていくかという視点でお話をいただきました。グループセッションにおいては、「問いづくりのワーク」を通して、参加者が「わちゃわちゃ感のある対話」を体験し、探究を楽しむ姿勢の大切さを実感する時間となりました。

今回の講演は、「子供主体の学び」に向けて教育観・授業観の転換を図る上でも、「探究」は鍵になってくると考えさせられる機会となりました。新たな視点や想いをもち、自分事として前向きな気持ちになった参加者も多かったのではないかと思います。

さあ探究の旅へ

山梨県総合教育センターにおいて、県内初の探究型研修「新たな教師の学びによる次世代リーダー研修会」を実施しました。

👤 子供が探究するなら、大人も探究する

今、子供たちの学びは探究へと舵を切っています。問いを立て、対話し、試行錯誤しながら深めていく学び。子供の学びと大人の学びは相似形。子供に探究を願うなら、教師である私たちも探究する存在でありたい。本研修は、「探究を教える人」になるのではなく、「探究を生きる人」になる時間でした。

💡 探究を生きる

では、教師が探究を生きるとは、どういうことなのでしょう。それは、知識を受け取る研修ではなく、**問いを手に、仲間とともに歩む探究の旅**でした。

🗺️ 地図のない旅に出る

最初は、不安もあったといいます。「何を話してよいか分からず、不安でした。」「探究型という形態が初めてで、正直戸惑いもありました。」「けれど、回を重ねるごとに変化が生まれました。」「毎回の研修が楽しみになりました。」「最後はワクワクで終わることができました。」「旅は、人を変えます。

🗨️ 対話が、視野を広げる

ホームグループでの対話。クロスセッションでの対話。管理職との対話。参加者から最も多く挙がった言葉は、「対話」でした。「これほど対話に時間をかけたことはありませんでした。」「教室で生徒が安心して話せるとは、こういうことかと実感しました。」「異校種だからこそ得られる気づきがありました。」「管理職の視点から学校を俯瞰できたことが大きな学びでした。」「立場を越え、校種を越え、視点が交差する。そこから、新しい問いが生まれる。

※ ホームグループ：学校で例えると学級
クロスセッション：学級を越えて毎回メンバーを入れ替え行うグループ対話

🌀 揺さぶられ、深まる

「自分の思考の偏りに気づきました。」「新たな問いが何度も生まれました。」「対話型の研修は主体的になれる。よい疲労感がある。」「講義形式の研修とは違う、自分の内側が動く感覚。既存の価値観を一度手放し、もう一度問い直す。そのプロセスの中で、「研修を“受ける”のではなく、“創っていく”感覚を持ってました。」「という声もありました。

🔥 管理職×次世代リーダー 立場を超えて火が灯る

管理職と次世代リーダーとの対話は、緊張も伴いました。「何か言いたげな表情が気になった。」「それでも、「校内の課題を人生設計も含めて話せた。」「学校の全体最適の視点に立てた。」「視野が大きく広がった。」「と、多くの参加者が語っています。立場が違えば、見えているものや感じていることは、少しずつ違っているかもしれない相手。だからこそ、「在り方」を手がかりに語り合う時間は、新たな問いに火を灯します。その火はすぐに燃え上がるものではありません。けれど確かに、内側で灯り続け、次の一步を照らし始めます。

🏠 研修と研修の“あいだ”が育てたもの

本研修は、4回の集合研修だけではありません。その「あいだ」に、実践がありました。「研修と研修の間に実践し、省察する時間が大きな意味を持っていました。」「問いを持ち帰り、学校で試し、また戻ってくる。回を重ねるごとに、「対話の内容がどんどん濃くなった。」「という声もありました。

👤 子供が探究する時代。教師もまた、問いを持ち、仲間と語り合い、自分の在り方を見つめ直す。本研修は、**学校の未来を在り方から描く探究の旅**です。あなたもその旅人になりませんか？

問いを手に、まだ見ぬ景色へ。



令和8年度「研修会申込事務説明会」

■日 時 令和8年4月7日(火)

■午前の部(中学校、高校、特支、私立学校) ■午後の部(小学校、義務教育学校)

受付 08:45~09:05

受付 13:20~13:40

説明会 09:05~12:00

説明会 13:40~16:35

■場 所 総合教育センター 大研修室

※各校の申込事務担当者1名は必ずご参加ください。

詳しい内容は、メールにてご案内しておりますのでご確認ください。



YAMANASHI PREFECTURAL
EDUCATION CENTER

編集発行
山梨県総合教育センター
山梨県笛吹市御坂町成田1456
電話 055-262-5571
Fax 055-262-5572
発行責任者 所長 天野 信一
発行日 令和8年3月19日